

夏季に流行する ウイルス感染症



谷本隆彦^{*1}，小松真成^{*2}（鹿児島生協病院 *1 感染症内科 *2 総合内科）

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

Introduction	p2
1. はじめに	p4
2. エンテロウイルスによる感染症	p5
3. 無菌性髄膜炎	p9
4. アデノウイルス感染症	p10
5. 重症熱性血小板減少症 (SFTS)	p11
6. COVID-19との鑑別	p12
7. 今後夏に流行が予想されるウイルス感染症	p13
8. おわりに	p14

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

Introduction

1 Bornholm 病

- ・胸部・腹部の深吸気や咳で悪化する痛みが特徴
- ・身体所見で筋把握痛や横隔膜の圧痛がみられる
- ・精巣痛もみられる
- ・血清CK値の上昇は稀
- ・症状軽快後の再燃に注意する

2 ヒトパレコウイルス3型感染症

- ・四肢近位部の疼痛，脱力が特徴
- ・精巣痛もみられる
- ・Bornholm 病と比較して，血清CK値上昇の頻度が高い

3 手足口病・ヘルパンギーナ

- ・コクサッキーウイルスA6は成人にも感染。症状が重く非典型的経過をたどる
- ・エンテロウイルスA71は脳炎・髄膜炎の合併に注意

4 無菌性髄膜炎

- ・エンテロウイルス属が無菌性髄膜炎の原因として最多
- ・ムンプスウイルスによる髄膜炎の最大50%は唾液腺炎を伴わないので注意

5 アデノウイルス感染症

- ・アデノウイルスによる結膜炎は耳前リンパ節腫脹に注目する
- ・咽頭結膜熱と比較して流行性角結膜炎は好発年齢が乳幼児から中高年まで幅広い

- ・感染性胃腸炎は下痢持続期間が長く，アルコール耐性のため手洗いが大事

6 重症熱性血小板減少症 (SFTS)

- ・発熱に加えて意識障害や消化器症状の頻度が高い
- ・直接マダニに咬まれるだけでなく，イヌやネコからの感染経路にも注意
- ・発生地域が関東に広がりつつあり，今後の流行に注意

7 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) との鑑別

- ・ウイルスごとに起こしやすい典型的な臨床像を把握する
- ・非典型例や無症候性感染例もあり流行状況に応じて検査を行って拾い上げる

8 今後，夏季に流行が予想されるウイルス感染症

- ・人の移動が活発化し輸入感染の増加に注意
- ・気候変動により夏のインフルエンザや蚊媒介感染症の流行も起こりうる

読者に伝えたいこと…

多くは小児で流行がみられるが，子どもから成人への感染で特徴的な症状を示すものもあり，子どもの病歴や接触歴を確認することが診断のヒントになる。多くはself-limitedな経過をたどるが，中枢神経系感染症などの合併症には注意が必要である。COVID-19は今後も夏季に流行するウイルスのひとつとなる可能性が高く，各ウイルスの臨床像の把握が重要である。さらに，輸入感染症，ダニ・蚊媒介感染症の流行も予想され，最新の流行状況の把握が必要である。

表 本コンテンツで紹介するウイルス感染症

	特徴的な臨床症状	原因ウイルス	検査所見	診断
Bornholm病	胸部、腹部の筋痛、 精巣痛	エンテロウイルス属		臨床診断
ヒトパレコウイルス 3型感染症	四肢近位部の筋痛、 精巣痛	ヒトパレコウイルス3型	CK値上昇	臨床診断 (PCR)
手足口病・ ヘルパンギーナ	手足・口腔内の水疱、 皮膚・爪の落屑	エンテロウイルス属		臨床診断
無菌性髄膜炎	発熱、頭痛、嘔吐	エンテロウイルス属、 ムンプスウイルス、 ヘルペスウイルス属など	髄液細胞数 増加	髄液PCR
咽頭結膜熱	結膜充血、咽頭痛、 耳前リンパ節腫脹	アデノウイルス		抗原検査
流行性角結膜炎	結膜充血、 耳前リンパ節腫脹			
感染性胃腸炎	嘔吐、下痢、発熱			
重症熱性血小板 減少症(SFTS)	意識障害、頭痛、 嘔吐、下痢	SFTSウイルス	白血球、 血小板減少	PCR
新型コロナウイルス 感染症(COVID-19)	発熱、咳嗽、 咽頭痛など	SARS-CoV-2		抗原検査、 PCR

1. はじめに

かぜやインフルエンザ、ノロウイルスが冬に流行するように、夏季にも注意すべきウイルス感染症が存在する。いわゆる夏かぜの代表的な原因としてエンテロウイルスやアデノウイルスが挙げられ、これらは乳幼児や小児の間で流行し二次的に成人への感染も起きる。特別な治療を行わずに自然治癒するものがほとんどであるが、中には合併症を起こすものがあり、手足口病やムンプスは子どもよりも成人例で重症化しやすいため成人診療でも注意が必要である。

2020年以降新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は年に数回のピークを繰り返しており、ゴールデンウィークや夏休みシーズンで人の動きが